絵本を用いたなつかしさ体験が感情に及ぼす影響について

A study of emotional to picture books–from the view of “Nostalgia”

齋藤　明香
人文科学研究科
臨床心理学専攻
Saitoh Haruka
Graduate School of Humanities,Division of Clinical Psychology,

要　約

本研究は，次の仮説①絵本を用いたなつかしさ体験によって，状態不安尺度の得点が下がる，②絵本を用いたなつかしさ体験によって，一般感情尺度　肯定的感情の得点が上がる，を検討することを目的に行った。予備調査において，関東圏内のA大学に在学する女子大学生340名に対し，なつかしいと感じる絵本の有無と，その絵本の題名を調べ，そのうち協力可能と答えた９名を対象に絵本を用いた実験を行った。被験者の９名を，介入群４名，統制群５名に分けた。介入群には，予備調査時に回答してもらった「なつかしいと感じる絵本」を実際に読んでもらった。統制群には，著者が作成した「なぞり課題」に取り組んでもらった。評価尺度として，新版STAI状態–特性不安検査（状態不安尺度），一般感情尺度，懐かしさ体験尺度を実施した。その結果，懐かしさ体験尺度の「なつかしい（$Z=-1.71$，$p<.10$）」「切 な い（$Z=-1.96$，$p<.05$）」「さ み し い（$Z=-1.96$，$p<.05$）」という項目において，介入群と統制群の間に有意な得点の差がみられた。その他の項目においては，有意な差はみられなかった。よって，仮説①，仮説②は支持されなかったが，絵本を用いたなつかしさ体験は，なつかしいと感じる対象が個人によって異なること，また，「なつかしい」という感情だけでなく，「切ない」「さみしい」といった感情をもたらすことが判明した。

【Key word】絵本，なつかしさ体験，女子大学生，感情

Ⅰ．問題・目的

近年，なつかしさ（ノスタルジア：nostalgia）が，何を手がかりに喚起され，どのような影響をもたらすのかについて様々な領域で研究されている。Holak & Havlena（1998）は，なつかしさを「過去と関連したもの（物，人，経験，考えなど）の反映によってもたらされる肯定的に結合された複雑な感覚，感情または気分」とし，川口ら（2011）は「単に快あるいは不快という２分法で分けられるものではなく，その両者が複雑に絡み合った感情」と定義している。これらの定義から，なつかしさという感情は，何らかの手がかりによって喚起される個人の過去によって異なる複雑な感情であると考えられている（楠見，2014）。

なつかしさを喚起させる手がかりとして，写真や映画，音楽，乳酸菌飲料や食物の匂いなどが用いられ，「家族とのきずなを強く感じるようになった」「ポジティブ感情が高まった」「他者と話すコミュニケーションの材料として使用されるようになった」「不安感や孤独感が低減した」と報告されている（Davis，1990；Holbrook，1993；小林ら，2002；川口ら，2011；カルピス株式会社発酵応用研究所，2015；Hirsch，1992）。

そこで本研究では，なつかしさを喚起する新たな手がかりとして絵本に注目した。絵本は0歳から100歳までが楽しめる文化財である（河合ら，2001）。一冊を読み終えるまでにかかる時間は短く，苦痛を感じることなく読むことができるものが多い（村中，1998）。日本プレイセラピー協会（2015）が作成した「遊びを通した子どもの心の安心サポート」では，大人が一人でできるセルフケアの1つに「子どもの頃に好きだった絵本を読み返す」ということを挙げている。しかし現時点では，かつて自分自身が読んでいた絵本を読むことでもたらされる心理的効果や，個人に合わせ実物の絵本を用いた研究はほとんどない。そのため，本研究では，被験者一人一人に合わせた絵本を用いたなつかしさ体験が，感情に与える影響を検討することを目的とする。

Ⅱ．予備調査

1．対象者

関東圏内のA大学に在籍する女子大学生340名。

2．調査時期

2016年5月～2016年6月

3．質問紙の調査内容

（1）フェイスシート：年齢，絵本を読んだことの有無，なつかしい絵本の有無，絵本の題名。

（2）新版STAI（State–Trait Anxiety Inventory–Form JYZ）状態—特性不安検査

状態不安（STAI Y–1）尺度20項目と特性不安（STAI Y–2）尺度20項目の合計40項目からなる。予備調査においては，特性不安尺度を使用した。特性不安尺度は，脅威を与えるさまざまな状況を同じように知覚し，そのような状況に対して同じように反応する傾向を示す尺度であり，不安傾向に比較的安定した個人差を示す。「ほとんどない(1)」から「ほとんどいつも(4)」の4件法。

（3）一般感情尺度

全体的な感情状態を「肯定的感情（PA：Positive Affect）」「否定的感情（NA：Negative Affect）」「安静状態（CA：Calmness）」の3つの下位尺度から測定する。「全く感じない(1)」から「非常に感じている(4)」の4件法。

（4）実験協力への意向に関する質問：実験協力への意向，意向ありの場合，氏名，連絡先のメールアドレス，実験前後の質問紙の対応を取るため，携帯電話番号の下4桁を匿名化IDとして使用した。

4．倫理的配慮

本研究は跡見学園女子大学文学部臨床心理学科の倫理委員会審査にて承認を受けた（受付番号：1609）。

5．結果

質問紙を配布した340名のうち，有効回

答は334名（98%）であった。

（1）フェイスシート

平均年齢は19.21歳（SD＝1.163）。有効回答者の334名全員が絵本を「読んだことがある」と回答した。なつかしいと感じる絵本は，287名（86%）が「ある」，47名（14%）が「ない」と回答した。

（2）新版STAI状態―特性不安検査（STAI Y−2：特性不安尺度）

特性不安尺度の平均得点は49.28（SD＝9.186）であった。

（3）一般感情尺度

肯定的感情の平均得点は2.64（SD＝0.77），否定的感情の平均得点は1.68（SD＝0.6），安静状態の平均得点は2.65（SD＝0.72）であった。

Ⅲ．実験

1．対象者

予備調査にて協力の意思を示した32名のうち，連絡の取れた9名。

2．実施時期

2016年7月下旬に実験への参加を依頼した。

3．質問紙の調査内容

（1）新版STAI（State−Trait Anxiety Inventory−Form JYZ）状態―特性不安検査

肥田野ら（2000）によって作成された質問紙である。本実験においては，状態不安尺度を使用した。状態不安尺度は，不安を喚起する事象に対する一過性の状況反応であり，その時その時により変化を示す。脅威であると知覚された場面では，得点は高くなるが，危険性が全くないかほとんどない場面では比較的低くなる。「たった今，あなたがどう感じているか」という教示文に，「全くあてはまらない(1)」から「非常によくあてはまる(4)」の4件法で回答を求めた。

（2）一般感情尺度

一般感情尺度は，予備調査時に使用した質問紙の内容を参照されたい。

（3）懐かしさ体験尺度

今野・上杉（2003）によって作成された尺度である。「親しみ」因子7項目（親しみのある，心がひかれる，なじみがある，うれしい，心地よい，ほのぼのとした，なつかしい）と，「切なさ」因子3項目（しみじみとした，切ない，さみしい）の合計10項目から構成されている。「あてはまらない(1)」から「あてはまる(5)」の5件法で回答を求めた。

（4）感想記入シート

実験終了後，実験に参加した感想を自由記述にて求めた。

4．実験内容

（1）参加者の振り分け

特性不安尺度の平均値が等しくなるようランダムに，かつ同質となるように「介入群」と「統制群」の2群にわけた。

（2）被験者への実験内容の説明

実験室は被験者の所属する大学構内に準備した。被験者1名ずつを対象に，文書および口頭にて実験内容の説明を行った。内容は，実験の概要と実験で得られたデータは個人が特定できないよう統計によって処理をすること，途中辞退や同意書の撤回，実験結果の報告，使用する質問紙の確認についてであった。説明後，実験への参加の意思を確認し，同意された被験者には同意書へ署名をしてもらった。

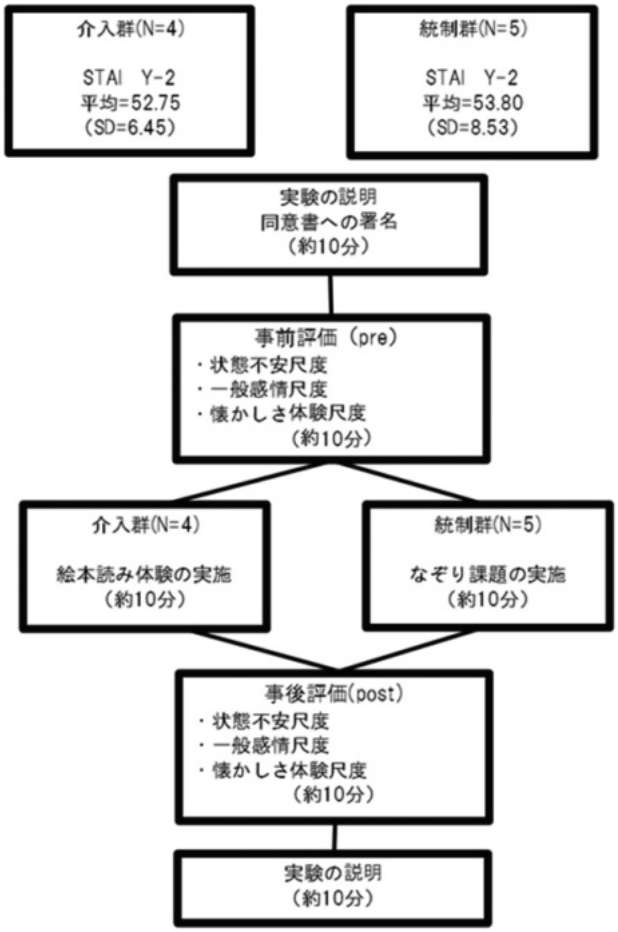

Figure 1．実験の流れ

（3）事前評価（pre）

実験に入る前に，質問紙への回答を求めた。質問紙の内容は状態不安尺度・一般感情尺度・懐かしさ体験尺度から構成されており，介入群と統制群の両群に回答してもらった。

（4）本実験

介入群には，予備調査の段階で回答してもらった「なつかしいと感じる絵本」を実際に読んでもらった。統制群には，なぞり課題に取り組んでもらった。課題の内容は，薄く印刷した線をなぞるものや，点と点をつないでいくもので構成されている。統制群の課題については，徳田（2009）の研究を参考にした。徳田（2009）は「何もしないで○分間過ごすという条件は，退屈感が生じる可能性，また，様々なことが頭に浮かんで気分に影響を与える可能性が考慮されるため，十分な調査ができないのではないか」と指摘している。そのため，心理的負荷が少なく，且つ課題の準備に多くの時間や労力を必要としない等といった条件を考慮した課題を設定した。

（5）事後評価（post）

課題の実施後，質問紙に回答してもらった。質問紙は，状態不安尺度・一般感情尺

度・懐かしさ体験尺度・感想記入シートから構成されている。事前評価と同様，介入群と統制群の両群に回答してもらった。

（6）事後説明

実験終了後，本実験に関する十分な説明を行った。

5．仮説

① 絵本を用いたなつかしさ体験によって，状態不安尺度の得点が下がる。

② 絵本を用いたなつかしさ体験によって，一般感情尺度　肯定的感情の得点が上がる。

6．分析方法

実験で得られた状態不安尺度得点，一般感情尺度得点，懐かしさ体験尺度得点について，SPSS（Ver. 23. 0）を用いて，以下の通り統計処理を行った。

1，実験開始時の得点について，介入群と統制群の差の検定を行った。

2，介入群・統制群の状態不安尺度得点・一般感情尺度得点・懐かしさ体験尺度得点について，Mann-WhitneyのU検定を行った。

7．倫理的配慮

実験における倫理的配慮について，実験で得られたデータは個人が特定できないよう統計によって処理をすること，途中辞退や同意書の撤回について，実験結果の報告，実験で使用する質問紙の確認について文書および口頭で伝えた。本研究は跡見学園女子大学文学部臨床心理学科の倫理委員会審査にて承認を受けた（受付番号：1609）。

8．結果

（1）実験参加者の概要

実験対象の9名を，介入群・統制群に無作為に分けた。そのプロフィールをTable 1に示す。予備調査時の特性不安の平均点は，グループ分けの時点で，介入群52. 75点，統制群53. 80点となり，標準偏差は介入群6. 45，統制群8. 53となった。両群について，t検定を行ったところ有意差はみられなかった（$t = -.203$，$df = 7$，$n.s.$）。

Table 1．介入群，統制群のプロフィール（N＝9）

介入群 No.	年齢	特性不安	統制群 No.	年齢	特性不安
001	21	50.00	001	19	40.00
002	18	59.00	002	18	53.00
003	19	45.00	003	21	56.00
004	18	57.00	004	18	63.00
			005	19	57.00
平均	19.00	52.75	平均	19.00	53.80
SD	1.41	6.45	SD	1.23	8.53

（2）実験による得点の変化の検討

状態不安尺度，一般感情尺度，懐かしさ体験尺度の平均得点と標準偏差を，Table 2に示す。Table 3は実験前と比較し，実験後に状態不安尺度の得点が低下していた者，4，5は実験前と比較し，実験後に一般感情尺度及び懐かしさ体験尺度の得点が上昇していた者に網かけがしてある。各質問紙のヒストグラムを作成したところ，正規性が認められなかった点や，被験者の人数が少ないという点から，ノンパラメトリック検定のひとつであるMann-WhitneyのU検定を行うことにした。Mann-WhitneyのU検定を行うにあたり，介入群は絵本読み体験後（post）から絵本読み体験前（pre）を引いた質問紙の尺度得点を統計値とした。統制群は，なぞり課題体験後（post）から，なぞり課題体験前（pre）を引いた質問紙の尺度得点を統計値とした。その結果，懐かしさ体験尺度の「なつかしい（$Z = -1.71$，$p < .10$）」「切ない（$Z = -1.96$，$p < .05$）」「さみしい（$Z = -1.96$，$p < .05$）」という項目において，

Table 2．群ごとの各尺度得点の平均値（標準偏差）とZ値，p 値

	介入群(N=4)		統制群(N=5)		Z値	p値
測定時期	プレ	ポスト	プレ	ポスト		
状態不安尺度	47.5	39.3	44.2	40.2	0.61	0.54
	(5.75)	(4.19)	(6.30)	(9.36)		
一般感情尺度						
肯定的感情	1.6	1.8	2.1	2.6	−0.73	0.47
	(0.29)	(0.33)	(0.64)	(0.87)		
否定的感情	1.7	1.2	1.5	1.3	−0.73	0.47
	(0.33)	(0.19)	(0.46)	(0.40)		
安静状態	2.5	2.3	2.6	2.6	0	1.00
	(0.71)	(0.84)	(0.60)	(0.94)		
懐かしさ体験尺度						
親しみがある	2.3	4.8	2.0	2.8	−1.47	0.14
	(1.50)	(0.50)	(1.00)	(1.30)		
心がひかれる	1.8	3.8	1.4	2.4	−0.86	0.39
	(0.96)	(0.96)	(0.55)	(1.34)		
なじみがある	2.3	5.0	1.4	2.6	−1.1	0.27
	(1.89)	(0.00)	(0.89)	(1.52)		
うれしい	1.5	3.3	1.8	2.8	−0.24	0.81
	(1.00)	(0.96)	(1.10)	(1.64)		
心地よい	2.5	3.3	2.4	2.8	−0.37	0.71
	(1.00)	(0.96)	(1.34)	(1.64)		
ほのぼのとした	3.0	3.3	3.0	3.4	−0.12	0.90
	(1.15)	(1.26)	(1.58)	(1.82)		
なつかしい	1.5	5.0	1.4	2.6	−1.71	0.09 †
	(1.00)	(0.00)	(0.89)	(2.19)		
しみじみとした	1.5	3.8	1.0	2.0	−1.22	0.22
	(1.00)	(0.96)	(0.00)	(1.41)		
切ない	1.0	3.8	1.2	1.0	−1.96	0.05*
	(0.00)	(1.89)	(0.45)	(0.00)		
さみしい	1.0	2.8	1.2	1.0	−1.96	0.05*
	(0.00)	(1.26)	(0.45)	(0.00)		

† p<.10, *p<.05, **p<.01, ***p<.001.

得点に有意な差がみられた。その他の尺度得点においては，有意な差はみられなかった。

（3）自由記述内容の検討

絵本読み体験を行った介入群からの意見をTable 6 に，なぞり課題を行った統制群からの意見をTable 7 にまとめた。

Ⅳ．考察

（1）各尺度得点に関する考察

本研究の目的は，絵本を用いたなつかしさ体験が，感情に及ぼす影響について検討

Table 3．被験者全員の状態不安尺度得点

	状態不安尺度	
	前	後
介入群 (N=4)		
a	46	38
b	40	35
c	52	39
d	52	45
平均	47.5	39.3
SD	5.75	4.19
統制群 (N=5)		
E	45.0	33.0
F	37.0	40.0
G	54.0	49.0
H	44.0	29.0
I	41.0	50.0
平均	44.2	40.2
SD	6.30	9.36

Table 4．被験者全員の一般感情尺度得点

	一般感情尺度 肯定的感情		一般感情尺度 否定的感情		一般感情尺度 安静状態	
	前	後	前	後	前	後
介入群 （N=4）						
a	1.9	2.3	2.1	1.0	2.0	2.5
b	1.9	1.6	1.4	1.4	3.5	1.1
c	1.4	1.5	1.6	1.1	2.0	3.1
d	1.4	1.9	1.5	1.4	2.6	2.5
平均	1.6	1.8	1.7	1.2	2.5	2.3
SD	0.29	0.33	0.33	0.19	0.71	0.84
統制群 （N=5）						
E	2.1	2.9	2.1	1.0	2.9	3.0
F	3.0	2.4	1.3	1.5	3.4	2.9
G	1.3	1.3	1.9	1.0	1.8	1.6
H	1.8	3.6	1.0	1.0	2.6	3.9
I	2.1	2.8	1.4	1.9	2.4	1.8
平均	2.1	2.6	1.5	1.3	2.6	2.6
SD	0.64	0.87	0.46	0.40	0.60	0.94

Table 5．被験者全員の懐かしさ体験尺度得点

	懐かしさ体験尺度 親しみがある		懐かしさ体験尺度 心がひかれる		懐かしさ体験尺度 なじみがある		懐かしさ体験尺度 うれしい	
	前	後	前	後	前	後	前	後
介入群 （N=4）								
a	3	4	2	3	1	5	1	3
b	1	5	1	4	1	5	1	2
c	4	5	3	3	5	5	3	4
d	1	5	1	5	2	5	1	4
平均	2.3	4.8	1.8	3.8	2.3	5	1.5	3.3
SD	1.50	0.50	0.96	0.96	1.89	0.00	1.00	0.96
統制群 （N=5）								
E	3	3	2	3	3	3	3	4
F	1	2	1	1	1	1	1	2
G	1	1	1	1	1	1	1	1
H	2	4	1	3	1	4	1	5
I	3	4	2	4	1	4	3	2
平均	2.0	2.8	1.4	2.4	1.4	2.6	1.8	2.8
SD	1.00	1.30	0.5	1.2	0.89	1.52	1.10	1.64

	懐かしさ体験尺度 心地よい		懐かしさ体験尺度 ほのぼのとした		懐かしさ体験尺度 なつかしい	
	前	後	前	後	前	後
介入群 （N=4）						
a	2	4	2	3	1	5
b	2	2	4	2	1	5
c	4	4	4	5	3	5
d	2	3	2	3	1	5
平均	2.5	3.3	3	3.3	1.5	5
SD	1.00	0.96	1.15	1.26	1.00	0.00
統制群 （N=5）						
E	3	4	3	4	1	1
F	1	2	1	2	1	1
G	1	1	2	1	1	1
H	4	5	5	5	3	5
I	3	5	4	5	1	5
平均	2.4	3.4	3	3.4	1.4	2.6
SD	1.34	1.64	1.58	1.82	0.89	2.19

	懐かしさ体験尺度 しみじみとした		懐かしさ体験尺度 切ない		懐かしさ体験尺度 さみしい	
	前	後	前	後	前	後
介入群 （N=4）						
a	1	3	1	1	1	1
b	1	5	1	5	1	4
c	3	4	1	4	1	3
d	1	3	1	5	1	3
平均	1.5	3.8	1	3.8	1	2.8
SD	1.00	0.96	0.00	1.89	0.00	1.26
統制群 （N=5）						
E	1	1	1	1	1	1
F	1	1	1	1	1	1
G	1	1	1	1	1	1
H	1	4	2	1	2	1
I	1	3	1	1	1	1
平均	1	2	1.2	1	1.2	1
SD	0.00	1.41	0.45	0.00	0.45	0.00

することであった。介入群には，自身がなつかしいと感じる絵本を読んでもらい，統制群にはなぞり課題を行ってもらう実験を行った。状態不安尺度，一般感情尺度，懐かしさ体験尺度の得点について，Mann-WhitneyのU検定を行った。その結果，介入群と統制群の間に有意な得点の差がみられたのは，懐かしさ体験尺度の「なつかしい（$Z=-1.71$，$p<.10$）」「切ない（$Z=-1.96$，$p<.05$）」「さみしい（$Z=-1.96$，$p<.05$）」のみであった。状態不安尺度及び一般感情尺度で，介入群と統制群に得点の差がみられなかった理由として，統制群の被験者の「小さいときにやったことがあるようなものだったので，少しなつかしく感じました」「小さいころにやったことがあったので，なつかしかったです」「幼稚園の頃を思い出し，なつかしかったです」といった自由記述から，課題になつかしさを感じていた可能性が考えられる。介入群と統制群の間に有意な得点の差がみられた懐かしさ体験尺度の「なつかしい（$Z=-1.71$，$p<.10$）」「切ない（$Z=-1.96$，$p<.05$）」「さみしい（$Z=-1.96$，$p<.05$）」という項目について，介入群は統制群よりも「なつかしい（$Z=-1.71$，$p<.10$）」「切ない（$Z=-1.96$，$p<.05$）」「さみしい（$Z=-1.96$，$p<.05$）」という感情を強く感じていたと推測される。介入群は，予備調査時の「なつかしいと感じる絵本の題名は何ですか？」という質問で回答された，各々のなつかしいと感じる絵本を実験で使用した。統制群は，なぞり課題に取り組んでもらった。課題の内容は，薄く印刷した線をなぞるものや，点と点をつないでいくもので構成されている，著者が独自に作成した課題であった。Kusumi, Matsuda, & Sugimori（2010）によると，「過去に接触したものと同じものと再び接触することで，強いなつかしさ感情が喚起されると同時に，当時の個人的な思い出などが想起される」という。介入群と統制群に得点の差がみられたのは，介入群は過去に接触したであろう絵本と実験時に再び接触したためではないかと考えられる。また，統制群は，「なぞる」という動作や，幼少期の経験から，「なつかしさ」を感じた者がみられた可能性が推測される。しかし，本実験で使用した課題内容を目にしたのは実験時が初めてであったことから，「切ない」「さみしい」と感じる者はみられなかったのではないかと考えられる。

（2）自由記述に関する考察

実験の終了時に記入していただいた被験者からの意見をまとめると，介入群はなつかしいという感情だけでなく，切なさや穏やかな感情を抱いたり，幼い頃とは違った目線で読むことができたということがわかった。また，統制群においても，幼い頃に経験したことがあるため，なつかしさを感じたという意見や，点と点をつないだり，薄く印刷された線をなぞる動作自体に楽しさを感じていたということがわかった。このため，比較対照となるはずであった統制群も，課題がなつかしさ体験となっていた可能性を否定できない。

（3）仮説の検討

本研究の目的として，次の2つの仮説を立てた。

仮説①，絵本を用いたなつかしさ体験によって，状態不安尺度得点が下がる。

Table 6．実験後の介入群（N＝４）の意見

子どもの頃に大好きな絵本だったので、最初はとてもなつかしく感じました。「はらぺこあおむし」の絵がカラフルで元気が出ました。絵本を読む前は少し緊張していましたが、絵本を読むと緊張が落ち着き穏やかな気持ちになりました。
今回、実験を行ってまさか自分の知っている絵本が出てくるとは思わなくてびっくりしました。しかも、この絵本には結構思い入れがあったので、読んでいて当時のことがなつかしくて、ちょっと切なくなりました。年を重ねてから絵本を読むと、幼いころよりも感情挿入しやすいんだなと思いました。
久々に絵本を読みました。イラストや字体がかわいくて、お話も切ないけど素敵でした。犬を飼っているので、帰って撫でたくなりました。
からすのパンやさんは小さいときに読んだことがあり、ひさびさに読み、とても懐かしく感じ、また楽しく読むことができました。子供の時に読んだ本を改めて読むことで、当時とは異なった目線で読むことができるのだと再発見することができました。

Table 7．実験後の統制群（N＝５）の意見

活動の内容が小さいときにやったことがあるようなものだったので、少しなつかしく感じました。少ない時間で何か変わるかな？と思いましたが、活動の前よりもゆったりとした気持ちになれました。夜寝る前にこういう作業をすると、気持ちが落ち着いてねむりやすくなるのかもしれないと思いました。
精神的活動を初めて行い、とても楽しかったです。なぞる時、左から右になぞる方がすらすらとできました。アンケートでの今の気持ちを回答するとき、自分の今の気持ちを言葉に置き換えにくいことに気付きました。
今回実験を行って、点と点を結んでいくと猫ができたり、バナナができたりというのは小さいころにやったことがあったので、なつかしかったです。全部はできませんでしたが、少し楽しんでできました。
幼稚園の頃を思い出し、なつかしかったです。思ったように書けなかったときに少しイラっときました。
実験前は「精神的活動に取り組む」ときいて、何をやるのか難しくないかなど不安を感じたが、実際は簡単なものばかりで安心して取り組むことができた。

仮説②，絵本を用いたなつかしさ体験によって，肯定的感情が上がる。

仮説①について，統計の結果，介入群と統制群の間に有意な差はみられなかった。このことから，仮説①は支持されなかった。仮説②について，統計の結果，介入群と統制群の間に有意な差はみられなかった。このことから，仮説②は支持されなかった。

（４）総合考察

本実験の結果より，絵本を用いたなつかしさ体験は，なつかしいと感じる対象が個人によって異なること，また，「なつかしい」という感情だけでなく，「切ない」「さみしい」といった感情をもたらすことがわかった。

（5）今後の課題

今後の課題としては，次のようなことが考えられる。今回，介入群には被験者自身がなつかしいと感じる絵本を読んでもらい，統制群にはなぞり課題を実施してもらったが，そのなぞり課題に対し「なつかしさを感じた」と自由記述で述べられていた。今後，比較対照するために統制群を設定する際，検討する必要があるだろう。また，被験者が女子大学生という点から，性別と年齢に偏りがあったことや，被験者数が少ないことが挙げられる。本研究は，やる気のあったボランティアの学生に対して実施したものである。今後も実験を行うにあたり，被験者集めは課題のひとつとなり得るだろう。

謝辞

本論文の執筆にあたり，ご指導いただきました松嵜くみ子教授，質問紙の回答や実験でご協力いただいた皆様に，厚く御礼申し上げます。

参考文献

Batcho, K.I.（2013）. Nostalgia : The bittersweet history of a psychological concept. History of Psychology，16，165–176.

Cavanaugh, J.C.（1989）. I have this feeling about everyday memory aging... Educational Gerontology，15，507–605.

Davis, F.（1979）. Yearning for yesterday : A sociology of Nostalgia. The free press. 間場寿一・萩野美穂・細辻恵子訳（1990）．ノスタルジアの社会学．世界思想社.

肥田野直・福原眞知子・岩脇三良・曽我祥子・Spielberger, C.D.（2000a）．新版STAI．実務教育出版.

肥田野直・福原眞知子・岩脇三良・曽我祥子・Spielberger, C.D.（2000b）．新版STAIマニュアル．実務教育出版.

Havlena, W.J., & Holak, S.L.（1996）. EXPLORING NOSTALGIA IMAGERY THROUGH THE USE OF CONSUMER COLLAGES. Advances in Consumer Research，23，35–42.

Hirsh, A.R.（1992）. “Nostalgia : A Neuropsychiatric Understanding.” Advances in Consumer Research，19，390–395.

Hofer, J.（1934）. Medical dissertation on nostalgia Bulletin of the History of Medicine， 2，376–391.

Holak, S.L., & Havlena, W.J.（1998）. Feelings,fantasies,and memories.Journal of Business Research，42，217–226.

Holbrook, M.B.（1993）. “Nostalgia and Consumption Preferences Some Emerging Patterns of Consumer Tastes.” Journal of Consumer Research，20，245–256.

堀内恵子（2007）．消費者のノスタルジア–研究の動向と今後の課題．成城文藝，201，179–198.

池田恭子・針塚進（2015）．表現様式の違いが懐かしさ体験に伴う情動と身体感

覚に与える影響についての検討．九州大学心理学研究，16，17-24.
カルピス株式会社発酵応用研究所（2015）.「カルピス」飲用によるなつかしさが感情と社会的絆に及ぼす効果．入手先<http://www.calpis.info/pressrelease/detail/pdf/releaseC15 51_nr00794.pdf>，（参 照2016年 3 月20日）.
川口潤（2011）．ノスタルジアとは何か―記憶の心理学的研究から（特集　情動/主体/文化）．名古屋大学大学院文学研究科附属日本近現代文化研究センターJuncture，２，54-65.
川口潤・佐藤綾香・伊藤友一・波多野文・大塚幸生（2011）．ノスタルジア感はどのように生じるのか：反応時間を指標として．日本認知科学会第28回大会，134-138.
河合隼雄・松居直・柳田邦男（2001）．絵本の力．岩波書店.
小林麻美・岩永誠・生和秀敏（2002）．音楽の「懐かしさ」と感情反応・自伝的記憶の想起との関連．広島大学総合科学部紀要Ⅳ理系編，28，21-28.
今野義孝・上杉喬（2008）．懐かしさの感情体験に及ぼす動作法による快適な心身の体験の効果―脳波の快適度と感情イメージ尺度による検討―．文教大学人間科学部，25，63-72.
今野義孝（2011）．懐かしさ出会い療法-動作法による懐かしさの活性化をめざした回想法．学苑社.
楠見孝・松田憲・杉森絵里子（2009）．広告と消費者心理：単純接触効果による安心感とノスタルジア．基礎心理学研究，28，142-146.
楠見孝（2014）．なつかしさの心理学-思い出と感情．日本心理学会，誠信書房.
村中李衣（1998）．読書療法から読みあいへ―「場」としての絵本―．教育出版.
日本プレイセラピー協会（2015）.「遊びを通した子どもの心の安心サポート～つらい体験後の未就学児（乳幼児）のためのマニュアル～」. 4－7．
小川時洋・門地里絵・菊谷麻美・鈴木直人（2000）.「心理測定尺度集Ⅴ」個人から社会へ<自己・対人関係・価値観>一般感情尺度．サイエンス社.
落合恵子（2013）．絵本処方箋．朝日文庫.
Sedikides, C., Wildschut, T., & Baden, D.（2004）. Nostalgia : Conceptual issue and existential functions, Handbook of experimental existential psychology. The Guilford Press，200-214.
多田美香里（1998）.「懐かしい」思い出に関する偶発的想起経験の事例研究―感情的印象と気分の効果―．感情心理学研究，６，43-44.
瀧川真也・仲真紀子（2011）．懐かしさ感情が自伝的記憶の想起に及ぼす影響：反応時間を指標として．認知心理学研究，９，65-73.
谷川原千恵美・渡辺久美子・佐藤親次・斉藤幸子・綾部早穂・松崎一葉・小田晋（2010）．ニオイによる高齢者の“なつかしさ”の喚起―“なつかしさ”を喚起させるニオイの選定．人間工学，30，51-56.
徳田完二（2009）．イメージ呼吸法と“小

作業”の効果―２分間の経験がもたらす心理的効果―．立命館人間科学研究，19，91-201．
津田健太（2015）．ノスタルジアが自己連続性に与える影響．一橋社会科学，７，43-52．
内田治（2014）．SPSSによるノンパラメトリック検定．株式会社オーム社．
Wildschut, T., Sedikides, C., Arndt, J., & Routledge, C.（2006）. Nostalgia : Content, triggers functions. Journal of Personality and Social Psychology，91，975-993.